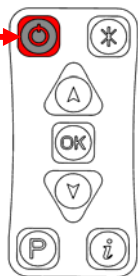


## 測定手順

### 測定前の準備

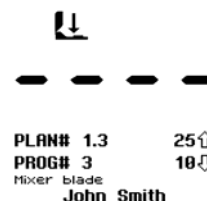
ON/OFFボタン



ON/OFFボタン $\odot$ で電源を入れます。

ピープ音が1度鳴り、内部校正自己診断を始めます。

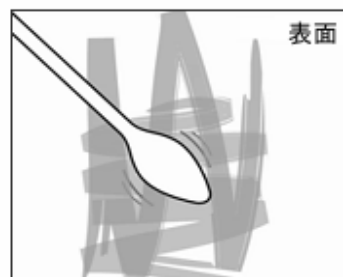
60秒のカウントダウン終わると測定画面が表示されます。



### ATPサンプルの採集

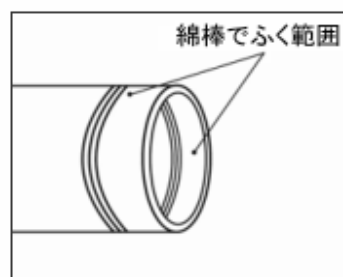
#### A 標準的な表面

検査表面の10×10cm角にあたる領域を綿棒でふきます。バイオフィルムを破壊するために綿棒が少し曲がる程度に圧力を加えながら、サンプルを採取しつつ綿棒を回転させます。



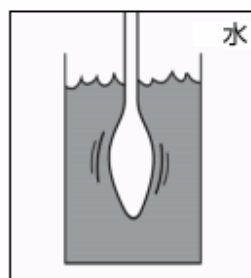
#### B 変則的な表面

10×10cm角でのサンプル採取を実施できない場合は、できるだけ多くの表面を綿棒でふきます。綿棒が少し曲がる程度に圧力を加えて回転させながら、適切な量のサンプルを採取して下さい。

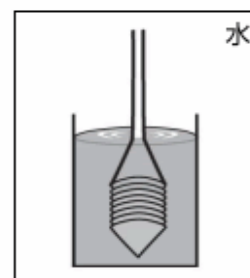


#### C 水のサンプル採取

検査対象の水のサンプル20mLに綿棒を5～10秒間浸します。水が均質ではない場合や水に沈殿物が見られる場合はサンプルを採取する前によく混ぜます。



Ultrasnap

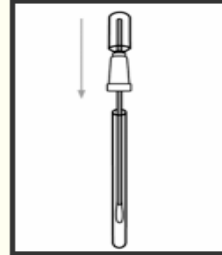


AQUASNAP

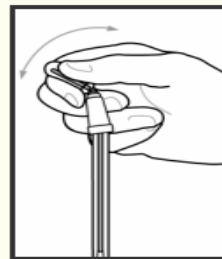
## 測定手順

### サンプル活性化と測定

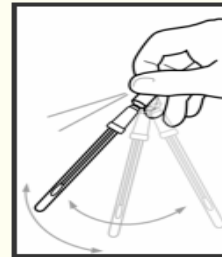
- 1** サンプルが採取できたら、綿棒をチューブに戻します。これでATPを活性化させる準備が整いました。この状態で最大4時間、活性化させずに放置することも可能です。採取場所で測定を行わない場合は、サンプルチューブにポイント名を記入すれば、試験室などに持ち帰りまとめて測定を行うこともできます。



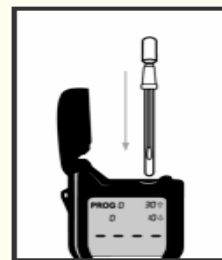
- 2** 試薬を立てて、プラスチック製のSnap-Valveが折れるまで上端部にあるバルブを折り曲げます。その後反対側にもう1回折り曲げ、活性化させるためにバルブを2回絞って全ての液体試薬をチューブ下部に押し流し入れます。



- 3** 器具を左右に静かに振り、綿棒の綿球部分を液体試薬に浸します。これでサンプルが活性化され、生物発光反応が起こります。安定した結果を得るために、活性化後は60秒以内に測定を行ってください。



- 4** SystemSURE Plusの上部を開き、活性化済みのUltrasnapをチャンバに挿入します。上部を閉じ、装置を立てて保持します。



- 5** SystemSURE Plusの[OK]を押し、測定を開始します。RLU値の結果は15秒後に画面に表示されます。

